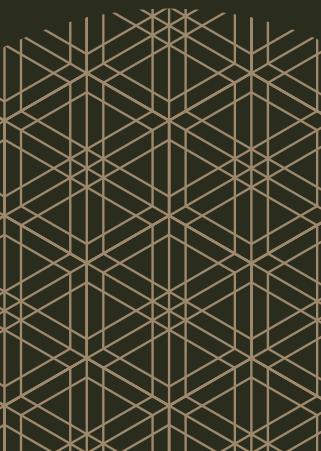


和の音 探訪記

二の巻



新内とは

新内節（しんないぶし）は、江戸時代に生まれた淨瑠璃（語り物）の一つです。舞踊の伴奏音楽として発展してきた他の淨瑠璃（常磐津や清元など）と違い、新内節は「新内流し」のスタイルと共に、お座敷淨瑠璃として人気を博しました。物語性のある演出で恋・哀しみ・人情を情感豊かに表現します。

新内の二つの顔

① 新内節（しんないぶし）

江戸時代の古典淨瑠璃の一形態で、長時間にわたる壮大な構成が特徴。唄、台詞、情景描写が交互に展開し、作品によつては一曲で二時間近くになることもあります。

② 新内小唄（しんないこうた）

戦後に生まれた新しい形で、古典新内のエッセンスを短く親しみやすくしたもの。淨瑠璃とは別物で、一曲あたり五、六分程度の物が多く、一九五〇年に成立した後は一大ブームとなりました。



そもそも「淨瑠璃」って？

古典的な邦楽は大きく分けて「語り物」と「唄物」に分けられます。唄物の歌詞を旋律に乗せて発することを「唄う」と言い、語り物の歌詞（詞章と呼ぶ）を発することを「語る」と言います。

この「語る」音楽＝淨瑠璃と呼ばれるのです。

色々な淨瑠璃（語り物）：新内・常磐津・清元・義太夫・一中節など

唄物：長唄・地唄・小唄・端唄など



江戸の粹を体験する

さあ、時を越えて江戸へ――

三味線の音色が、あなたを物語の世界へと誘います。

音・語り・感情が一体となつた演奏は、数百年前の江戸の街並みに響いていたそのままの空気をあなたの目の前へと運んできます。